

春の訪れとともに、木々が新緑に染まり、生命の輝きを増していく今日の佳き日に、ご来賓の皆様、そして多くの保護者の皆さまにご臨席を賜り、令和七年度帝塚山学院泉ヶ丘中学校の入学式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

169名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。いよいよ中学校生活が始まりました。制服に身を包み、緊張した様子の皆さんを見てみると、これからの学校生活への期待や意欲が伝わってきます。今日の喜びや抱負、そして決意を初心として、決して忘れずに持ち続けてください。

まずは、いま皆さんが制服につけている学校章についてお話ししたいと思います。

帝塚山学院の学校章は、「帝」という文字を中心に、品格を象徴する「松」が両側に配置されています。その二葉の松が成長し、実を結ぶことを意味しています。若い「松かさ」を使うことで、若々しさにひそむエネルギーが、学院の生生発展、すなわち「絶えず活動しながら発展すること」を表現しているのです。ぜひ、覚えておいてください。

さて、中学校での三年間は、心も体も、人生の中で最も成長する時期です。そのため、この大切な三年間をどのように過ごすかが、皆さんにとって重要なポイントとなります。そこで、私から三つのお願いをさせていただきます。

一つ目は、「何事にも挑戦し続ける姿勢を持つこと」です。「やりたいこと」や「やるべきこと」があるなら、まずはそれを言葉にして表現し、それを形にして実行に移してください。初めて挑戦するとき、不安や迷いを感じるかもしれません。しかし、恐れずに一歩を踏み出してください。たとえ失敗しても、それは大したことではありません。なぜなら、学校は「最も安全に失敗できる場所」だからです。

かつて、発明王のトーマス・エジソンは、電球を完成させるまでに一万回もの試行錯誤を重ねたと言われています。しかし、彼はそれを「失敗」とは考えず、「私は失敗したことがない。ただ、うまくいかない方法を一万通り見つけたただけだ」と語りました。つまり、決して諦めることなく、うまくいかなか

った経験から学び、それを次に活かし続けた結果、成功を手にしたのです。大切なのは、挑戦し続け、そこから学び続けることです。本当の失敗とは、挑戦をやめて何も学ばなくなることです。大人たちも社会の中で失敗を重ね、その中で多くのことを学びます。皆さんも、失敗を恐れずに挑戦し、その経験を成長に繋げてください。

二つ目は、「自律して判断し行動する」ことです。ここでいう「じりつ」とは、「自分を律する」という意味の「じりつ」です。中学生は、大人への第一歩を踏み出す時期です。思春期を迎え、自分の意見や感情が強くなり、「何でも自分でできる」という気持ちが芽生えます。そのため、時には親や先生から言われることに反発した

くなることもあるでしょう。しかし、そうした反発心も成長の一部です。大切なのは、その感情をどのようにコントロールし、行動に移すかです。だからこそ、皆さんには「自律」が必要なのです。社会の一員としてふさわしい行動を取れるよう、自分の行動をきちんと管理すること、それが「自律」の本質です。自分勝手なルールではなく、周囲との調和を考え、人としてふさわしい行動をするために、しっかりと自分を律し、判断し、行動することを心がけてください。

三つ目は、「人への感謝と思いやりの心をもって、人とのつながりを大切にすること」です。思いやりに満ちた言葉や行動は、周りの人々を幸せにする力がありま

す。また、人は一人で生きているのではなく、多くの人に支えられて生きています。だからこそ、常に「ありがとう」という感謝の気持ちをもって、それを素直に言葉にできる人になってほしいのです。

私たちは、皆さんを全力で応援していきます。新しい生活が始まる今、不安もあると思いますが、私たちが皆さんを支えていきますので、この新たな舞台で理想を掲げ、夢に向かってどんどんチャレンジしてください。

最後になりましたが、ご参列の保護者の皆様、本日は本当におめでとうございました。お子様の中学校入学を心からお祝い申し上げます。私ども教職員一同は、お寄せいただいた大きな期待をしっかりと受け止

め、全力で教育に当たる所存です。無限の可能性を秘めた新入生の皆さんが希望あふれる学校生活のなかで夢を育み、健やかに成長されることを心から祈念するとともに、改めて本日までご臨席賜りましたご来賓の皆様ならびに保護者の皆様の温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。式辞といたします。

令和7年4月5日

帝塚山学院泉ヶ丘中学校

校長 飯田哲郎